

CONTENTS

● 2023 事業概要：北九州市建設局

★ 特に重要な施策など

- P.17 国道3号黒崎バイパス
- P.19 生活道路の交通安全対策
- P.35 地域に役立つ公園づくり
健康づくりを支援する公園整備事業
- P.36 公募設置管理制度(Park-PFI)
- P.57 災害対策（河川の増水に備えた情報提供）
- P.62 旦過地区再整備事業
- P.65 にぎわいを創出する取組
- P.70 血倉山リニューアル計画

該当事業には★のマークがついています。



勝山公園の「いちいがし」

その昔、北九州市周辺に広がっていた「いちいがし」の森は、人々の暮らしが豊かになるにつれて失われていきました。私たちの生活が豊かになる一方で、失われていった自然があることに気づき、市民が人と自然とのつながりを考えて行動ができるようお願いをこめて、昭和49年に「いちいがし」を北九州市のシンボルツリーとしました。

1 北九州市の概要	3
1-1 沿革	
1-2 産業	
1-3 地勢・市勢・人口	
1-4 気候	
2 北九州市基本構想・基本計画	4
2-1 北九州市基本構想・基本計画	
3 建設局の概要	5
3-1 建設局の組織	
3-2 北九州市の財政	
3-3 建設局の予算	
4 道路事業	7
4-1 道路の役割	
4-2 道路の種類	
4-3 道路の現況	
4-4 交通量・道路整備の推移	
4-5 北九州市道路整備中長期計画	
4-6 主な取組	
4-7 道路の管理	
トピック 国道3号黒崎バイパス	
5 公園事業	27
5-1 北九州市“緑”の基本計画	
5-2 環境首都の魅力	
5-3 健康・生きがい	
5-4 安全	
5-5 協働	
5-6 公民連携	
トピック 到津の森公園	
6 河川事業	41
6-1 河川事業の目的	
6-2 市内の主な河川	
6-3 河川の管理	
6-4 河川事業の種類	
6-5 治水対策	
6-6 環境整備	
6-7 紫川の河川整備	
6-8 瀬川の河川整備	
6-9 ほたるのふるさとづくり	
6-10 災害対策	
6-11 河川愛護の啓発	
6-12 河川の維持管理	
トピック 紫川親水広場	
7 局・部を越えた事業	61
7-1 旦過地区まちづくりに伴う河川整備事業	
7-2 北九州市 小倉都心部浸水対策推進プラン	
7-3 花と緑の小倉回廊	
7-4 にぎわいを創出する取組	
7-5 建設局の低炭素まちづくりの取組	
7-6 血倉山リニューアル計画	
8 その他の事業	71
8-1 用地取得に関する業務	
8-2 屋外広告物対策	
8-3 地籍調査	
8-4 PR活動	
8-5 市民参加型の事業	
8-6 GIS及びオープンデータによる情報公開の取組	
● 事務分掌	77
● 資料編	81

1 北九州市の概要

1-1 沿革

北九州市は、昭和 38 年（1963 年）に 5 つの都市が対等合併して生まれた全国で 6 番目の政令指定都市です。

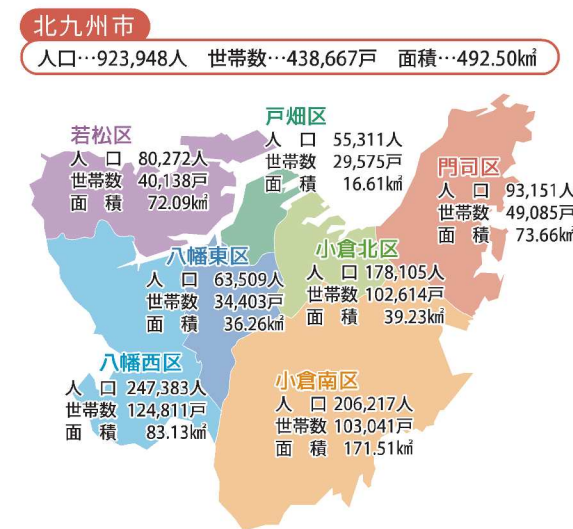
5 つの都市は、大陸を至近距離におき国際貿易港として発展してきた門司、旧城下町・軍都として政治・経済の中心地として発展してきた小倉、筑豊炭田の石炭積出港として栄えた若松、八幡製鐵所と関連企業の勃興で重厚長大産業の主翼として発展してきた八幡、遠洋漁業基地として、また八幡製鐵所の戸畑製造所の設立で活況を帯びた戸畑です。

その後、各区の人口、面積の違いからくる行政サービスのアンバランスなどによる不合理を解消するため、昭和 49 年 4 月にそれまでの 5 区制から小倉区を南北に、また八幡区を東西に分割して 7 区制へと移行し、現在に至っています。

1-2 産業

北九州市には、官営八幡製鐵所の創業以来 100 年を超えるものづくりの歴史の中で培われてきた技術と人材という大きな財産があり、空港や港湾などの産業活動を支える交通・物流基盤が整うとともに、北九州学術研究都市をはじめとした知的基盤を強化し、そこから生み出される研究成果を活用して、環境素材、カーエレクトロニクス、ロボットなどの最先端技術の複合化により、ものづくり産業の高付加価値化を図っています。一方で、21 世紀に入り、少子高齢化の進展、情報通信の高度化、経済のグローバル化、地球環境問題の深刻化など、時代環境は大きく変化しています。このような変化に対応し、まちづくりを次のステージへと進めるため、本市は平成 20 年 12 月、新しいまちづくりのビジョンとなる北九州市基本構想と、構想を具体的に進めていくための基本計画「元気発進！北九州」プランを策定し、産業を支える知的基盤の充実や産業人材の育成、新たな成長産業の集積を促進し、「アジアの中核的なものづくり拠点」の形成に取り組むこととしています。

◆北九州市の人口・面積（令和5年4月1日現在）



なお、昨今の社会経済情勢の変化や新たな行政課題などを踏まえた今後の本市の方向性等を市の基本方針に反映させるため、平成 25 年 12 月に基本計画の見直しを行っています。

1-3 地勢・市勢・人口

本市は、ほぼ東経 131°、北緯 34°の九州で最北端に位置し、関門海峡を挟んで本州に接しています。

市の東部は周防灘、北部は響灘に面し、西部は遠賀川周辺の宅地化が進む農村地帯、南部は筑豊、京築の田園地帯が連なっています。市域の大部分は、東部の企救山塊と中央部から南へ延びる貫・福智山塊により占められ、北部は海に面して平地が広がっていますが、概して後背地の少ない地形です。また、地質的にも安定しており、地震の少ない地域です。

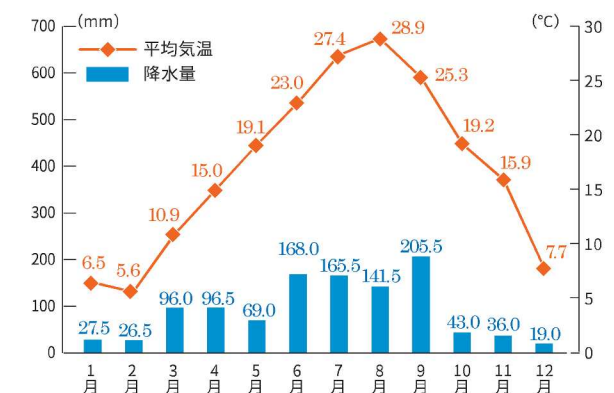
市域面積は、昭和 38 年の新市発足当時の約 452km² から、行政区界の変更や公有水面の埋立てにより令和 3 年 9 月現在約 491.71km² に拡大しており、福岡県域の約 10% を占めています。人口は発足当時の 102.5 万から昭和 54 年には約 106.9 万人となりましたが、その後減少傾向が続き、令和 3 年 9 月現在約 93 万人となっています。



1-4 気候

本市の気候は、日本海型気候に属しますが、対馬暖流の影響もあり、温暖で、大部分の降雨が梅雨、台風期に集中する傾向が見られます。

◆北九州市平均気温と雨量（令和4年）



2 北九州市基本構想・基本計画

2-1 北九州市基本構想・基本計画 「元気発進！北九州」プラン

北九州市は、昭和 38 年に五市対等合併により誕生して以来、総合的かつ計画的な市政運営に努め、幾多の困難に遭遇しつつも、着実に発展を遂げてきました。

21 世紀に入り、超高齢・少子化や地球環境問題の深刻化など、時代環境は大きく変化しています。平成 20 年 12 月、本市では、こうした時代が求める課題への対応を図るため、新しいまちづくりの指針となる基本構想・基本計画「元気発進！北九州」プランを策定しました。

このプランでは、「人と文化を育み、世界につながる、環境と技術のまち」を目標に掲げ、その目標を実現するため、「人づくり」「暮らしづくり」「産業づくり」「都市づくり」といった 4 つのまちづくりの基本方針を定めました。

また、「世界の環境首都」と「アジアの技術首都」といった北九州ブランドの創造を通じて、市民の自信と誇りを生み出すとともに、にぎわいづくりを進めます。

あわせて、まちづくりの推進力として、市民、行政、連携、資産、自然といった 5 つの「ちから」を大切にします。

このプランに基づき、国内外の社会経済状況の変化に柔軟に対応しながら、市民や企業等との協働により、新しいまちづくりを進めていきます。なお、昨今の社会経済情勢の変化や新たな行政課題などを踏まえた今後の本市の方向性を市の基本方針に反映させるため、平成25年12月に基本計画の見直しを行っています。

※新市長の就任に伴い、北九州市の新たなビジョン・重点戦略の策定に向け、現在取組みを進めています。

◆北九州市基本構想・基本計画 「元気発進！北九州」プラン

■まちづくりの目標 人と文化を育み、世界につながる、環境と技術のまち

■4つの基本方針

- (1) 人づくり ～多様な人材が輝くまちをつくる～
- (2) 暮らしづくり ～質の高い暮らしができるまちをつくる～
- (3) 産業づくり ～元気で人が集まるまちをつくる～
- (4) 都市づくり ～便利で快適なまちをつくる～

■北九州ブランドの創造

- (1) 都市ブランドの構築
 - 世界の環境首都
 - アジアの技術首都
- (2) 地域の誇りの再発見と新たな魅力の創出
 - 「政策」や「モノ」、「場所」などに着目したブランドの構築

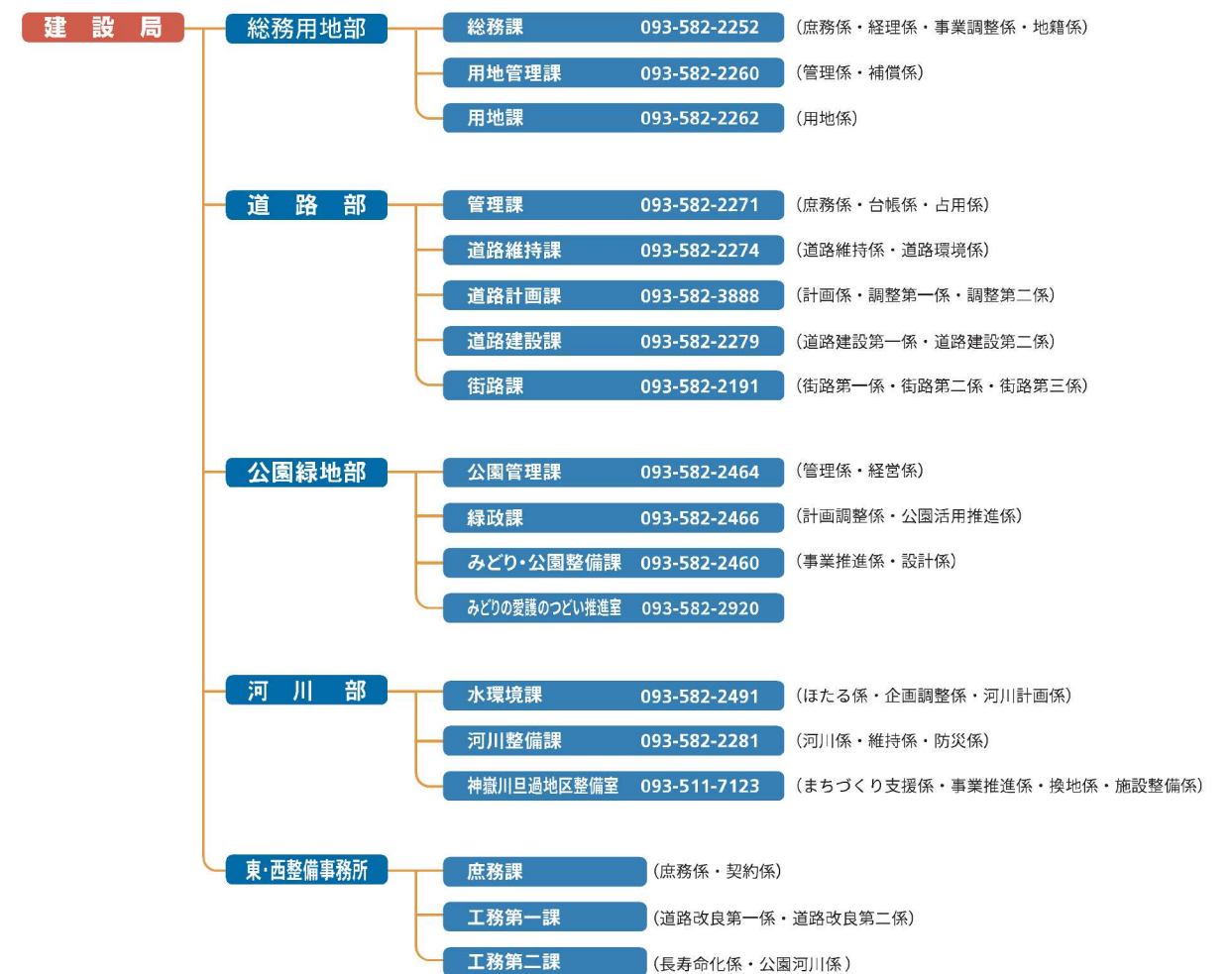
■まちづくりの取組の柱

- I 人を育てる ～子育て・教育日本一と創造性あふれる人材の輩出～
- II きずなを結ぶ ～健康で安全・安心な暮らしの実現～
- III 暮らしを彩る ～快適な生活空間の創出と文化・スポーツの振興～
- IV いきいきと働く ～競争力のある産業振興と豊かな雇用創出～
- V 街を支える ～都市基盤の強化と国際物流拠点の形成～
- VI 環境を未来に引き継ぐ ～市民・企業・行政が共につくる「世界の環境首都」～
- VII アジアの中で成長する ～アジア諸都市との交流・協力と広域連携～

3 建設局の概要

3-1 建設局の組織

建設局の事業は、市民の暮らしの安全を守り、快適な生活をつくる重要な事業であり、また各局が行うまちづくりを支えるための社会基盤整備を行っています。各部、各事務所はそれぞれの役割を担って体系的に運営され、以下のような組織で事業を推進しています。



3-2 北九州市の財政

北九州ポテンシャルを呼び醒ませ！ 「成長への再起動」予算

本市では、令和5年2月、16年ぶりに新市長が就任し、「挑戦する市政」「恐れない市政」を目指すとされています。

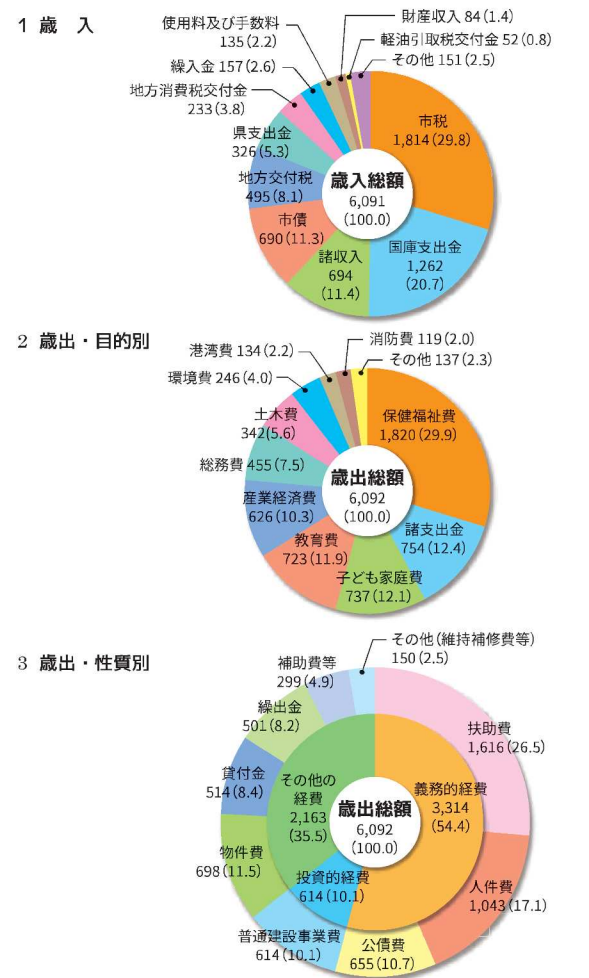
北九州市は、地理的に優位な“アジアの玄関口”に位置し、豊富な水源に加え、強靱な土地を有しており、そこに人が集まり、企業が集積しているなど、「日本を動かす」「世界に羽ばたく」とつとめないポテンシャル(底力)を持っています。

そのポテンシャルを最大限引き出したい。これらをバラバラの“点”ではなく、“線”や“面”とできれば、まちの持っている地力が見える化するれば、「人口減少」「財政危機」「経済の停滞」といった課題を克服し、新たな価値を生み出し、日本やアジアをけん引する都市になれるといった思いを込め、令和5年度予算はキャッチフレーズを『北九州ポテンシャルを呼び醒ませ！「成長への再起動」予算』としました。

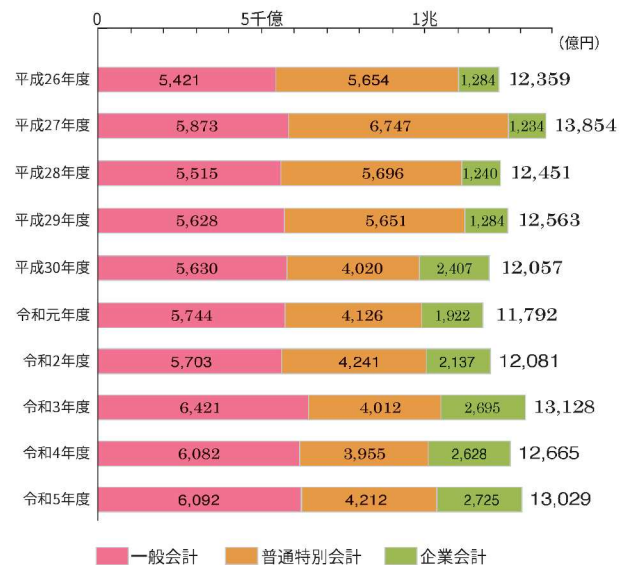
令和5年度の予算総額は1兆3,029億円で、そのうち「一般会計」は、6,092億円と前年度に比べ9億円(0.2)の増となっています。

●令和5年度 北九州市一般会計当初予算

(単位：億円、()内は構成比%)



◆当初予算の推移



特別会計

特定の事業を行う場合、特定の歳入をもって特定の歳出に充て、一般会計から収支経理を分離して別に会計を行うものを指します。

企業会計

特別会計のうち、地方公営企業法に基づき設置が義務づけられているもので、会計方法も一般会計と全く異なったものを採用しています。

3-3 建設局の予算

建設局令和5年度当初予算は以下の通りです。

◆建設局の予算 (単位：千円)

区分	令和4年度当初		
	補助	単独	合計
合計	11,325,835	22,254,279	33,580,114
一般会計	10,925,835	17,520,303	28,445,638
土地整理特別会計	400,500	266,700	667,200
土地取得特別会計	0	4,467,276	4,467,276

◆建設局一般会計事業別の予算

